

きびしくとりしまりました。そのきまりというのは、

〈百姓は、朝早く起きて草をかり、昼は田畑をたがやし、晩にはなわをない、

わらをあみ、物を深く考えずに、仕事だけをする事。〉

〈百姓は、酒やお茶をのんではならない。〉

〈百姓は、衣類は、もめんのほか、ぜいたくなものを着てはならない。〉

〈百姓は、麦、あわ、ひえ、菜、大根などを食べて、米をたくさん食べない

ようにすること。〉——などで、これは慶安のおふれ書きといわれています。

こうして、農民の生活をきりつめさせて、年貢をたくさん納めさせようとしたのです。農民の方は、生活が苦しいから、なるべく年貢を軽くしてもらいたいと考えます。村の年貢を納める責任者の与次右衛門は、農民の考えもわかるので、年貢を軽くしてもらおう訴えの文書を書いて、お役所にさし出したこともありました。このころ、会津藩もお金にこまり、江戸の商人から四千両も借り